

講義名	教養特講 (人間健康学科へのいざない)			授業形態	
担当教員	関 和俊 / 青山 将己 / 魚田 尚吾 / 内田 達介 / 北村 裕美 / 高橋 宏斗 / 中山 一郎 / 前川 明 / 山口 志郎 / 山本 隼年 / 与那覇 秀熙	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
			ナンバリング・コード	FYE110	

主題と概要

1年生後期から始まる人間健康学科での専門的な学修に向けての基礎を築く。身体の仕組みや身の健康を維持するための知識、スポーツビジネスの仕組み、キャリア形成など、人間健康学科で取り扱うテーマの概要を知る。楽しむためのスポーツ、支えるスポーツ、健康づくりのためのスポーツなど、さまざまな視点からのスポーツを学ぶ。

到達目標

将来、専門家として各分野で活躍するために必要な知識や技術、資格の重要性について理解できるようにする。各講義を通して人間健康学科で学ぶ専門分野の概要を理解できるようにする。将来の進路選択を見据えたコース選択(スポーツ健康コース、スポーツマネジメントコース)ができるようになる。

提出課題

授業中に実施する小レポートや課題を提出する。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

各自小レポートの提出がある。レポートに関して適宜フィードバックを行う。

評価の基準

提出課題や出席状況、授業への参加度などで評価する。オムニバス科目のため、担当教員ごとに評価をした上で最終的に総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

遅刻限度は、開始後15分以内とする。5回以上欠席した場合は、成績評価対象者と認めない。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.なし。					
------	--	--	--	--	--

その他

適宜、資料を配布する。

授業計画

- 1: ガイダンス・スポーツ・運動処方へのいざない (関)
- 2: 体力測定へのいざない (関・山本・内田・魚田)
- 3: 健康づくり学へのいざない (北村)
- 4: キャリア形成と能力開発へのいざない (前川)
- 5: 測定・評価へのいざない (山本)
- 6: スポーツマーケティングへのいざない (山口)
- 7: スポーツプロモーションへのいざない (青山)
- 8: スポーツツーリズムへのいざない (山口)
- 9: 野外教育活動へのいざない (高橋)
- 10: 地域スポーツへのいざない (与那覇)
- 11: シュニア育成指導者へのいざない (魚田)
- 12: キャリアデザイン学へのいざない (中山)
- 13: 健康運動・トレーニング指導者へのいざない (山本)
- 14: スポーツ心理学へのいざない (内田)
- 15: まとめ・スポーツと環境へのいざない (関)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア: PBL(課題解決型学習)	イ: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習: 毎回の講義のテーマに沿った内容を事前に調べておくこと(2時間)。
 復習: 各回で取り上げたテーマについて、自分の身の回りの事例をふまえてまとめておく(2時間)。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

「健康的で豊かな社会の実現に貢献できる学生を育てる」ことが本学科のディプロマポリシーであるが、そのためには「健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就職する」ことが重要となる。これから学科において何を学び、その学びがいついかなるようなキャリア(進路や就職)と結びついていくのかという知識を養う講義であり、本学科のディプロマポリシーの達成に大きく貢献できる科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

responFormsをコミュニケーションツールとして活用することがあるため、教員の説明を十分理解するように努めること。

実務経験の有無及び活用

備考